

みようじん けん はつね
名神に 献ずる初音 聞きたしと
ごようまつ ふくじゅそう
五葉松下に 福寿草咲く

令和七年元旦

大中臣正比呂



はすいけ ごしやてい さが とじよう
蓮池の御舎弟が佐嘉城に登城する際、下船して身支度を整える下屋敷が
みずがえ きたじゅっけんばた おもて ごようのまつ
水ヶ江の北十間端にあった。その表玄関先の五葉松の下には、毎年、
正月頃に黄色い福寿草が咲く。天井高き書院造りの奥座敷には、地袋に
つづみ つづみ
秘かに鼓が置かれ、床の間に鶴の一幅の掛軸が心を鎮める。正面には、
たたみ け つか ちようたん じよう やり うるし らんま
畳を蹴って掴む、長短二条の槍が黒漆の欄間に沈む。元旦の朝、屠蘇
を奥座敷に続く、招客の表座敷で頂く。筆者が幼き頃の記憶である。